

ロングホームルームにおけるキャリア教育の実践についての研究

—— 勤労観・職業観を形成する授業 ——

高校教育研究会議

斉藤 哲哉¹

成田 滋²

小森谷 勇³

宮下 謙治⁴

要 約

高等学校のクラス担任は、ホームルーム活動や三者面談等を通して日々生徒の進路指導を行っているが、3年生になっても進路を決められない生徒がいる。問題として生徒の進路に関する意識の低さが浮き彫りとなるが、原因は様々考えられ、働く意義が分からないことや将来の生活に夢や希望をもてないことが要因として挙げられる。そこで、これらの問題を解決するために、本研究では、勤労観・職業観の形成を目指す。勤労観・職業観については「社会貢献や社会を形成していこうとする考え」と「将来の夢や希望を目指してこれからの生活に意欲的に取り組もうとする考え」と定義した。手立てとしてロングホームルームにおけるキャリア教育の授業を計画し、「職業について」、「社会の動きと働くことについて」、「自己を知り、働くことと将来の社会における役割について」の題材を扱い、班での話し合い活動や進路に向けた活動の振り返りを取り入れ授業を行った。その結果、クラス担任は責任感のある大人になりたいという考えややりがいを求めて働くという考えなどをワークシートの記述などから見取ることができた。また、クラス担任が授業をして生徒に話し合い活動などをさせることで、生徒に社会貢献や社会を形成していこうとする考えやこれからの生活に意欲的に取り組もうとする考えがみられた。授業は勤労観・職業観を形成させる一助となり、進路への意識を高めることができた。

キーワード：ロングホームルーム、キャリア教育、勤労観・職業観、クラス担任

目 次

I 主題設定の理由	114	(2) 「学業と進路」の授業内容の整理と例	117
1 はじめに	114	(3) キャリア教育全体計画の中の ロングホームルームの位置付け	118
2 研究主題の設定	114	(4) 授業の実践と検証	118
(1) 「川崎市立高等学校教員対象アンケート (生徒の進路に向けた取組)」より	114	3 授業の実際と考察	120
(2) 勤労観・職業観について	114	(1) 川崎市立A高等学校での授業	120
(3) ホームルーム活動について	115	(2) 川崎市立B高等学校での授業	123
(4) キャリア教育について	115	(3) 川崎市立C高等学校での授業	127
II 研究の内容	116	III 研究のまとめ	130
1 研究の目的	116	1 研究の成果	130
2 研究の内容・方法	116	2 今後の課題	132
(1) ホームルーム活動「学業と進路」 の位置付け	116	参考文献	132
		指導助言者	132

¹川崎市立高津高等学校教諭（長期研究員）

²川崎市立川崎高等学校教諭（研究員）

³川崎市立川崎総合科学高等学校教諭（研究員）

⁴川崎市立商業高等学校教諭（研究員）

I 主題設定の理由

1 はじめに

高等学校でクラスをもつたびに悩むことは、生徒の進路決定についてである。1年時より、進路指導部を中心として3年間を見通した進路指導を行い、進路説明会、進路適性検査、大学訪問等に取り組んでいる。また、クラス担任もホームルーム活動や個人面談等を通して進路指導に当たっている。それにもかかわらず、3年生になっても自分で自分の進路を決めることのできない生徒は少なからずいる。そこで、本市の市立高等学校における、進路に向けた生徒の取組の現状について調査を行い、問題の原因を探ることとした。

2 研究主題の設定

(1)「川崎市立高等学校教員対象アンケート(生徒の進路に向けた取組)」より

川崎市立高等学校の本研究員の在籍する4校において、全日制30名、定時制20名、合計50名の教員を対象にアンケートを実施した。質問は2種類である。

- ・設問1 進路に対する意識 「生徒は〔1〕自分で目標をもって進路決定をしている。〔2〕進路面接で、自分の考えを述べることができる。〔3〕職業に関する知識が十分である。〔4〕進路選択のための情報収集の方法を知っている。」の4つの項目に対して、「(ア)とてもそう思う(イ)ややそう思う(ウ)あまりそう思わない(エ)まったくそう思わない」の4件法によるアンケート
- ・設問2 進路指導上の問題についての自由記述

設問1の50名の回答者のうち、「(ア)とてもそう思う(イ)ややそう思う」の合計は、〔2〕については21%、〔3〕については6%、〔4〕については17%と低い数値を示しており、表現力の未熟さや生徒の職業に関する知識の不十分さ、情報収集能力の未熟さが見えてくる。また、〔1〕についても13%と低く、将来の目標をもたずに進路決定をしている可能性があることが明らかになってきた。

次に、設問2の30名の回答は、社会事情、生徒の学力や能力に関する問題、校内事情や教員に関する問題等、記述内容は多種多様であるが、およそ3分の1の教員が、生徒の進路に関する意識の低さを挙げていた。ここからも、生徒が自分の問題として将来のことを考えていない現状が見えてくる。

それではなぜ、生徒は自分の将来を思い描くことができないのであろうか。アンケートの分析から、次のような原因が考えられる。

- ①就職すること、働くことについての意義が見いだせず、自分の目標が設定できない。
- ②将来に対して夢や希望がもてず、これからの生活に意欲的に取り組めない。
- ③職業に関する知識が不十分である。
- ④自分の将来のことについて考える機会がないために、進路選択のための情報収集が乏しい。
- ⑤勉強しても成績が伸びず、就職できないのではないかとあきらめてしまっている。

これらの原因の中から、①と②に着目することにした。生徒が働くことについての理解を深めるとともに将来への夢や希望をもち、これからの生活に意欲的に取り組めるようにしていきたい。本研究においては、勤労観・職業観を形成することが問題解決につながるのではないかと考えた。

(2) 勤労観・職業観について

ここで取り上げる勤労観・職業観とは、「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査

研究報告書¹⁾にある「望ましい勤労観・職業観」のことである。

「望ましい勤労観・職業観」については、調査研究報告書の中で、「子どもたちが働く意義や目的を探究し、一人一人が自分なりの職業観・勤労観を形成・確立していく過程を指導・援助することが大切である。その際、多様性を大切にしながらも、それらに共通する要素として、職業の意義についての基本的な理解・認識、自己を価値あるものとする自覚、夢や希望を実現しようとする意欲的な態度等、『望ましさ』を備えたものを目指すことが求められる。」と述べられている。そして、調査研究報告書は、「望ましさ」の要件を次のようにまとめている。

○基本的な理解・認識面

- ①職業には貴賤がないこと
- ②職務遂行には規範の遵守や責任が伴うこと
- ③どのような職業であれ、職業には生計を維持するだけでなく、それを通して自己の能力・適性を発揮し、社会の一員としての役割を果たす意義があること 等

○情意・態度面

- ①一人一人が自己及びその個性をかけがえのない価値あるものであるとする自覚
- ②自己と働くこと及びその関係について総合的な検討を通じた職業・勤労に対する自分なりの構え
- ③将来の夢や希望の実現を目指して取り組もうとする意欲的な態度 等

本研究では、勤労観・職業観を、「望ましい勤労観・職業観」で掲げる基本的な理解・認識面の③と情意・態度面の③に重点を置き、目指す勤労観・職業観をもつ生徒像を、次の「ア」と「イ」の考えをもつこととした。

- 「ア」働くことで社会に貢献しようとする考えまたは社会の形成者としての役割を果たすという考え
- 「イ」将来の夢や希望の実現を目指してこれからの生活に意欲的に取り組もうとする考え

（３）ホームルーム活動について

ホームルーム活動は、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育てることを目標としており、学校生活の基盤となるものである。生徒が将来の生活に対する意識を高めるためには、進路に関する諸問題をクラスで話し合い、協力して解決することが必要となる。また、クラス担任が生徒一人一人の特性をつかみ個に応じた指導をするためにも、ロングホームルームは重要となる。そこで、高等学校学習指導要領第5章特別活動「ホームルーム活動」の「内容」にある、「学業と進路」の項目を扱い、ロングホームルームにおいてキャリア発達を促す授業を工夫し、生徒に勤労観・職業観を形成することで、生徒の進路に対する意識は変化していくものとする。

（４）キャリア教育について

キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である。本研究では、ロングホームルームにおいて、職業と仕事、働くことの意義と目的、職業生活などの題材を取り上げ、生徒同士で話し合ったり、発表したりする活動を行うことを通して、勤労観・職業観を形成し、キャリア発達を促すことを目指す。したがって、次のように研究主題を設定した。

¹⁾国立教育政策研究所生徒指導センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究報告書」2002年 pp. 21 - 23

研究主題

ロングホームルームにおけるキャリア教育の実践についての研究

— 勤労観・職業観を形成する授業 —

Ⅱ 研究の内容

1 研究の目的

生徒が自分の将来の生活を、少しでも充実したものにしていこうとするためには、将来に向けて目標をもち、目標に向かって進んでいこうとする意識の変革が必要である。また、将来の生活と関連して、働くことや職業に対する自分なりの価値観も必要となり、勤労観・職業観を形成することが重要となる。そこで、進学や就職への手順を指導することではなく、クラス担任として、これからの生活に対する一人一人の意識の変革を行うことを目的として、ロングホームルームにおける「学業と進路」の項目の中で、目指す勤労観・職業観を形成する授業をつくる。そして、次の2つのことが、授業をつくるうえで重要なものとする。

- ①クラス担任が授業を行うことで、生徒一人一人の考えを見取りきめ細やかに指導していくこと
- ②同じ進路希望の生徒同士で話し合い活動をさせたり、生徒に進路活動への振り返りを発表させたりなどの工夫を盛り込んで授業をすること

2 研究の内容・方法

(1) ホームルーム活動「学業と進路」の位置付け

「学業と進路」の項目に関する内容を、高等学校のキャリア教育の全体から見た図を示す(図1)。キャリア教育は、各教科や総合的な学習の時間及び特別活動を通して行われる。

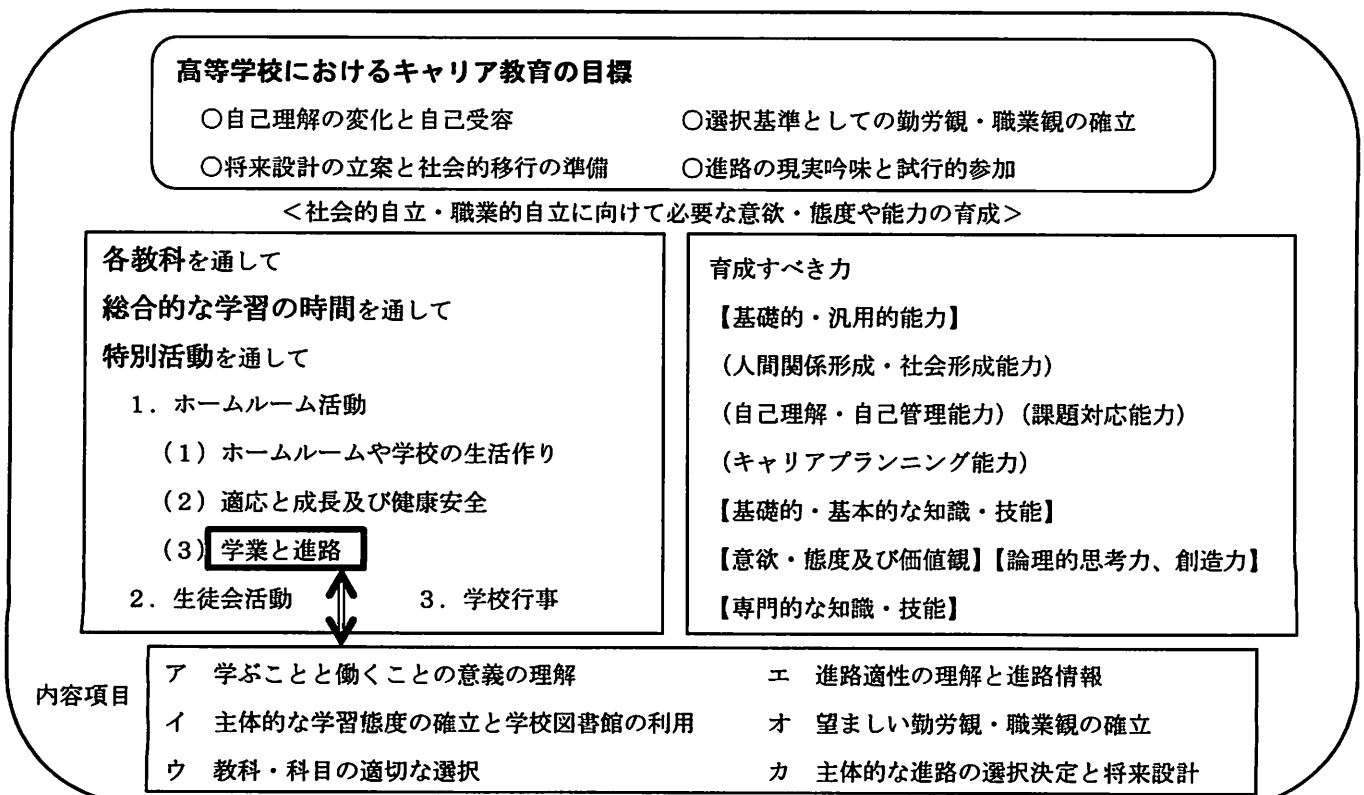


図1 「学業と進路」を高等学校のキャリア教育全体から見た図

(2) 「学業と進路」の授業内容の整理と例

図1に示すロングホームルームで考えられる「学業と進路」についての授業を、「職業について」、「社会の動きと働くことについて」、「自己を知り、働くことと将来の社会における役割について」の観点から、次の3つに分類した(図2)。

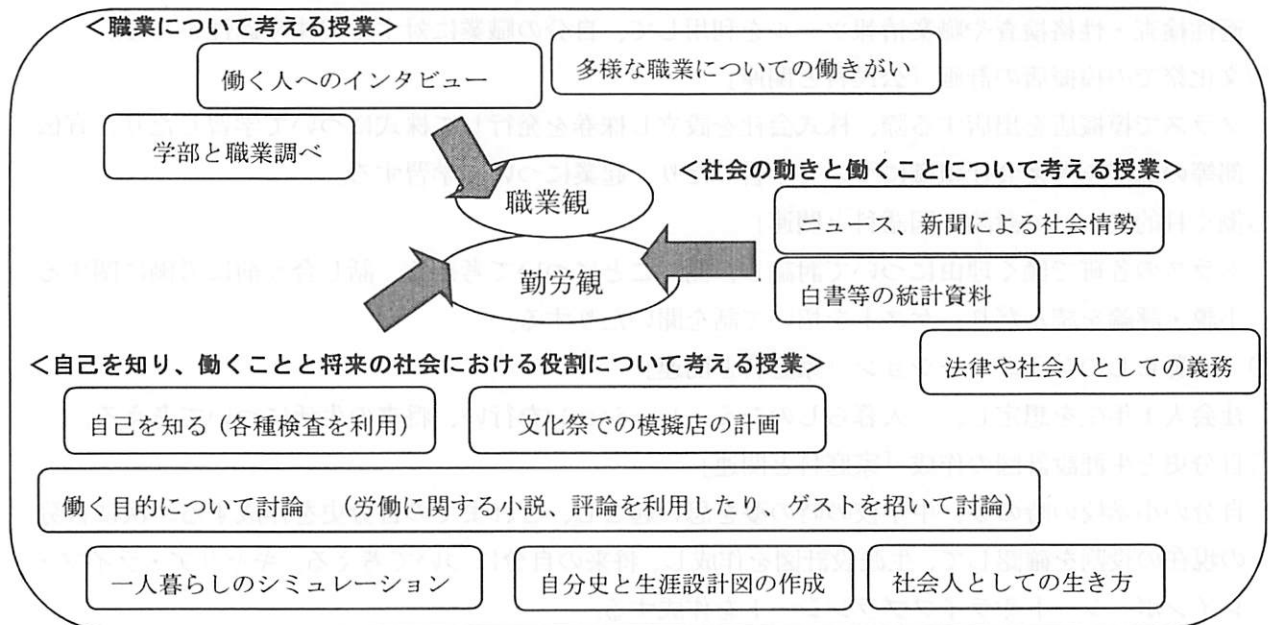


図2 ロングホームルームで考えられる授業

次に、各授業の具体例と内容が各教科等と関連する場合は教科名を示し、これらの題材から各学年における授業の計画を考える。

<職業について考える授業>

ねらい：職種、業種についての理解を深め、職業を自分の生き方と関連させて考え、職業を選ぶ際の価値観を形成する。

○働く人へのインタビュー「公民科と関連」

地域に出かけ働く人へのインタビューをし、仕事のやりがいや苦勞する点を聞き、自分の職業調べと関連付けて職業について考える。例えば、地元商店会や企業と連携した学習を行う。

○多様な職業についての働きがい「公民科と関連」

働く姿やインタビューを収めたDVDを見て、働きがいなどについて討論し職業について考える。

○学部と職業調べ

大学の学部と職業とのつながりについて調べ、職業について考える。

<社会の動きと働くことについて考える授業>

ねらい：社会状況を把握し、社会で起きていることを自分が働くことと関連して考え、これからの生活について考える態度を身に付ける。

○ニュース、新聞による社会情勢「公民科と関連」

働く人を取り巻く環境の変化を、新聞や雑誌等の資料で調べ、働くことについて考える。

○白書等の統計資料「公民科と関連」

職業別の労働人口など白書や区市町村の統計資料を利用して、働くことについて考える。

○法律や社会人としての義務「公民科と関連」

労働に関する法律や社会人の義務(国民年金や納税)について調べ、働くことについて考える。

＜自己を知り、働くことと将来の社会における役割について考える授業＞

ねらい：自己を見つめ、働くことの意義を考え、社会における自分の役割について考える態度を身に付ける。

○自己を知る（各種検査を利用）「公民科と関連」

適性検査・性格検査や職業情報ツールを利用して、自分の職業に対する興味や適性を知る。

○文化祭での模擬店の計画「公民科と関連」

クラスで模擬店を出店する際、株式会社を設立し株券を発行して株式について学習したり、宣伝部等の部署を考え会社組織について学習したり、起業について学習する。

○働く目的について討論「国語科と関連」

クラスの各班で働く理由について討論し、働くことについて考える。話し合う前に労働に関する小説・評論を読んだり、ゲストを招いて話を聞いたりする。

○一人暮らしのシミュレーション「家庭科と関連」

社会人1年生を想定し、一人暮らしのシミュレーションを行い、将来の生活について考える。

○自分史と生涯設計図の作成「家庭科と関連」

自分の小学校の時の夢、中学校の時の夢を思い起こし、これまでの自分史を作成する。次に自分の現在の役割を確認して、生涯設計図を作成し、将来の自分について考える。キャリア・ライフ・レインボーシートやライフプランシートを作成する。

○社会人としての生き方「保健体育と関連」

卒業生の話やクラスの友達の進路に関する話を聞き、自分の活動を振り返り将来の生活について考える。

（3）キャリア教育全体計画の中のロングホームルームの位置付け

ロングホームルームで行われるキャリア教育の題材の学年配当を考え、全体計画の中に位置付ける。題材と各教科、総合的な学習の時間、学校行事、進路指導部の取組との関連する内容例を次ページ表1に示す。

（4）授業の実践と検証

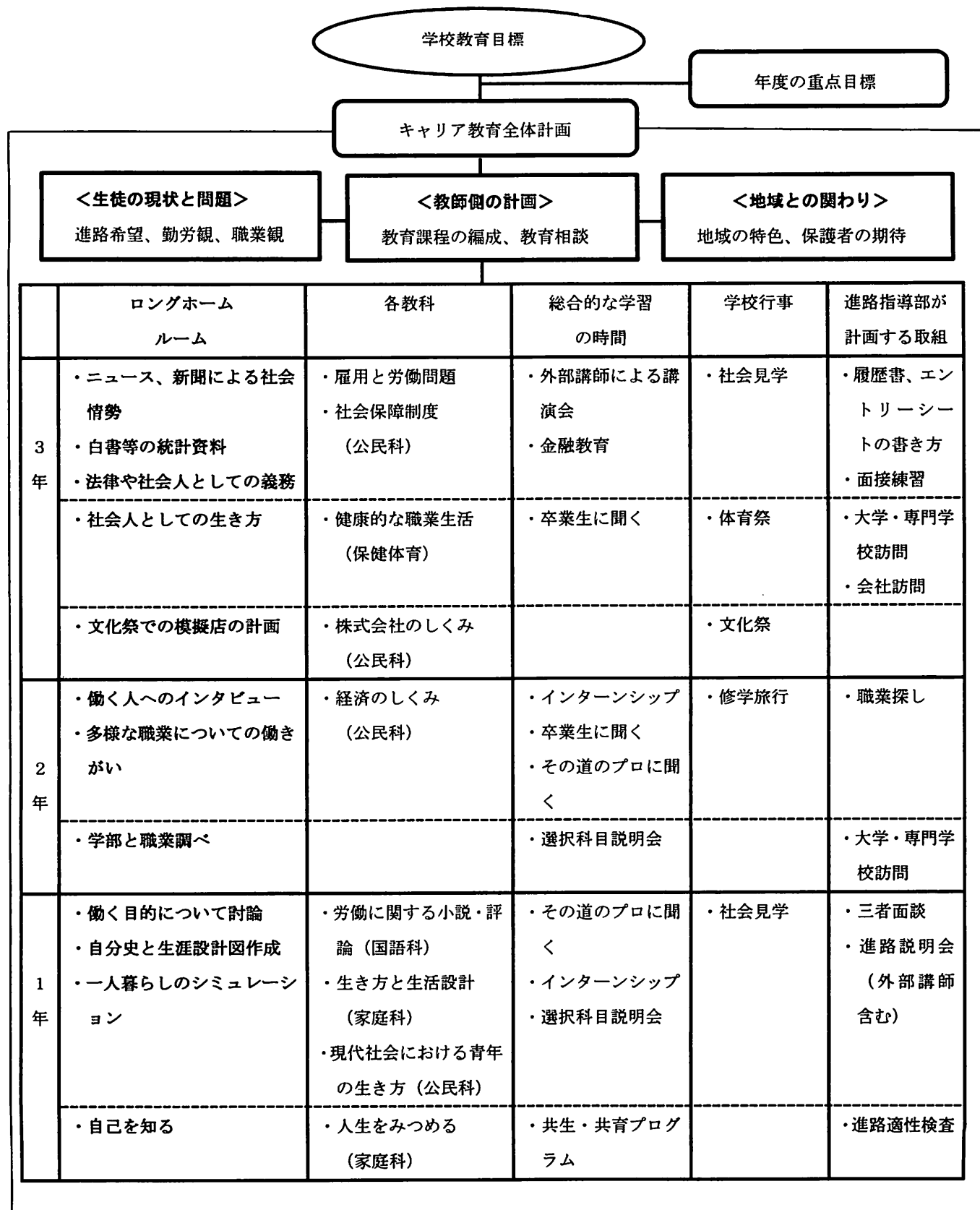
①授業の実践

本研究では、表1の計画をもとに授業を実践し、第1回授業では、「法律や社会人としての義務」、「自己を知る」を取り上げ、A高校では、「働くことに関わる法律」、B高校では、「職業について」、C高校では、「働くことに関わる諸問題」という題材名で授業を実践し、働くことへの意識付けを目的とした。第2回授業では、「働く目的について討論」と、「社会人としての生き方」を取り上げ、A高校では、「働く目的」、B高校、C高校では、「社会人としての生き方」という題材名で授業を実践し、働くことの意義や、将来の生活について考えることで、勤労観・職業観の形成を試みた。今回の研究報告では、第2回の授業についての実践報告をする。

②授業の検証方法

授業の検証方法については、ワークシート、発話記録、授業後の振り返りアンケート、授業後のインタビューを利用する。A高校「働く目的」では、ワークシート、発話記録から生徒の考えを分析する。B高校「社会人としての生き方」では、ワークシート、発話記録、振り返りアンケートから生徒の考えを分析する。C高校「社会人としての生き方」では、ワークシート、振り返りアンケートから生徒の考えを分析する。また、各学年ワークシートの記述から、さらに考えを聞きたい生

表1 キャリア教育全体計画のロングホームルームの位置付け



徒には授業後インタビューを行う。

勤労観・職業観の形成については、前述の目指す生徒像に照らし合わせて、次の「ア」と「イ」を検証の視点として用いる。

「ア」働くことで社会に貢献しようとする考えまたは社会の形成者としての役割を果たすという考え
「イ」将来の夢や希望の実現を目指してこれからの生活に意欲的に取り組もうとする考え

次に、「ア」と「イ」の考えが授業の中で形成されたかどうかについては、次の内容の記述、発言があるかどうかで判断する。

「ア」の考えについて

- ・社会全体を良くしていくために働くという内容
- ・協調性や他人への気遣いを重視して、周りの人とともに社会のために働くという内容
- ・ルールやマナーを守るなど社会的な常識をもち、責任感があり周りから信頼を得て働くという内容

「イ」の考えについて

- ・具体的な自分の目標を理由とともに示した内容
- ・目標のために成すべきことを考え努力していこうとする内容

3 授業の実際と考察

(1) 川崎市立A高等学校での授業(定時制1年) 平成25年10月30日(水) 4校時

①題材名 「働く目的」

②学級観

高校に入学して半年が過ぎ、一日の生活のリズムの中に定時制の学校生活が定着している生徒が多い。一方、欠席や遅刻が多く、学習意欲が低調な生徒も散見される。クラスは22名で、フルタイムに近い就労をしている生徒が1名、その他数名の生徒がアルバイトをしている。多数の生徒が将来の具体的な計画を立てておらず、不安を感じている。具体的な目標設定がなく高校生活への期待度も低い。

③本実践とキャリア教育

職業や勤労についてどのような考えをもち、どのように働くかは、その人の人生に深く関わる。生徒が働くことの目的を考えたり、自身の理想とする将来の生活を描いたりすることは、日々の充実した生き方や主体的な進路決定につながる。

④本時のねらい

働くことの意義や目的について考え、これからの自分の生活について考える態度を育む。

⑤本時の活動

<ワークシート設問1へ自分の考えを書く>

設問1. あなたは、卒業後いずれ就職します。「あなたにとって、働く目的は何ですか。」
あなたの考えを書いてください。

<ワークシート設問2へ自分の考えを書き、班で話し合う>

設問2. あなたは、職業を選ぶとき、何を優先しますか。あなたのベスト3をあげてください。
また、その理由を書いてみましょう。

やりがい	給料	楽しさ	能力(適性)	働く時間	安定感
社会の役割	地位・名誉	その他()			
☆1位	☆2位	☆3位			

班で話し合った内容を発表（クラスで意見交流）

<ワークシート設問3へ自分の考えを書く>

設問3. 友だちのいろいろな考えから、あなたの考えは変わりましたか。今日の授業を振り返り、もう一度考えてみてください。「あなたにとって、働く目的は何ですか。」あなたの考えを書いてください。

⑥授業の記録

個々の生徒の考えをみるために設問2の記述を取り上げ、次に生徒の考えの変容をみるため、発話記録、設問1と3の記述を取り上げる。

<ワークシート設問2の記述から>

各班で、設問2の職業を選ぶときに何を優先するかベスト3について話し合いを行った。生徒19人の回答とその理由についてである。(表2)。

表2 職業を選ぶとき優先するものベスト3

	1位	2位	3位	理由
A	やりがい	楽しさ	給料	
B	やりがい	楽しさ	給料	
C	楽しさ	やりがい	給料	楽しくないと続かないから。
D	楽しさ	給料	安定感	
E	楽しさ	給料	安定感	楽しさが重要だ。
F	給料	給料	給料	
G	安定感	給料	楽しさ	特にないけど安定感は重要。
H	安定感	給料	楽しさ	首になったら意味がない。
I	楽しさ	給料	安定感	自分でやっていて楽しさ必要。
J	給料	働く時間	やりがい	世の中金で動いているから。
K	給料	働く時間	楽しさ	
L	楽しさ	能力(適性)	給料	自分にあった職業で楽しかったらいい。
M	楽しさ	給料	安定感	楽しく働きたい。
N	能力(適性)	やりがい	安定感	自分に合っていないものをやるのは自分のためにもならないし、継続しづらいと思いました。やりがいと安定感があれば長く続けられると思ったからです。
O	楽しさ	給料	安定感	楽しくないと進んで働こうと思わない。
P	安定感	給料	楽しさ	長く続いて楽しく続けられる。
Q	やりがい	楽しさ	安定感	みんなのために役立っていると感じる方がいいと思う。
R	安定感	給料	楽しさ	
S	安定感	やりがい	給料	なんとなく。

生徒が1位に挙げたものは、楽しさ(7人)、安定感(5人)、やりがい(3人)、給料(3人)、能力(1人)という結果となった。また、ベスト3で見ると、給料(17人)、楽しさ(15人)、安定感(12人)、やりがい(7人)、働く時間(2人)、能力(適性)(2人)という結果で、給料の次に楽しさが多く挙げられた。

＜班の発話記録とワークシート設問1と3の記述から＞

ここでは1班の設問2の会話の一部とワークシート、授業の始めの設問1と終わりの設問3の記述の一部を取り上げ、A、B、2人の生徒について考察する。

(1班 女子4名発話記録) T:教師 A、B、C、D:生徒

T:設問2にいきます。あなたは、職業を選ぶときに、何を優先しますか。あなたのベスト3を書きましょう。

B:先生このベスト3って、どう書けばいいの。

A:あなたのこれ、絶対うそ、金、金、金じゃない。

B:金の欄ないじゃない。うちは純粋に楽しさを。

D:でも、楽しさなけりや確かにつまらない。

B:楽しさを自分の中に探すんだよ。うちは。

C:給料、給料。

D:楽しさ、だって楽しくなけりややった気にならないじゃない。

A:うそ、おまえベスト1給料だろう。うちは1番給料、2番楽しさ。

B:え、やりがいが1番、給料2番くらい。

D:やっぱり、楽しさだよな。

A:安定感ほしい。

B:私のやりたい職業に安定感ない。

A:やりがいか、よくわからないんだけど。楽しさがないと、仕事続かないよね。バイトやってるとね、終わった後むちゃくちゃ達成感ある。

B:それがやりがい。コンビニやってるとね、あんまり楽しさ感じない。飲食店の方がありそ。

A:絶対つまんなかったら続かない。だからやりがいが1位で、安定感かな。

T:各班で発表してください。

B:みんな「やりがい」入っているよね。私たちの班は、「楽しさ」と「やりがい」、じゃこれ言うね。私たちのグループでは、やりがいと楽しさを求めてより長く仕事がしたいという人が多かったです。

Aさんの1番
は給料

友達から、達成感が
やりがいと気付いている

表3 ワークシート設問1と3の記述の一部

生徒	設問1 (働く目的)	設問3 (働く目的)
A	自分が欲しいものを買うため。	やっぱり、やりがいを求めて働くというのが目的だと思いました。
B	お金。	やりがいと楽しさを求め、そしてより長くできる仕事。

以上の会話、ワークシートの設問1と3の比較から(表3)、Aさん、Bさんに考えの変容がみられる。職業を選ぶときに何を優先するかという問いに対して、最初は「お金」、「給料」と言っているAさんが、周りの生徒と話し合う中で「やりがい」や「楽しさ」も重要であると変わっている。

設問3の共通する言葉として、「やりがい」が挙げられ、それぞれの生徒にとってやりがいとは何か、授業後インタビューを行った。以下に、Aさん、Bさんのやりがいについての考えを示す。

A:他の人がやりたくないことを自分がやって、それが自分にとって嬉しく、自分にとってのやりがい。

B:積極的にやったり、自分でやってみて、やってよかったと思えること。

⑦授業の考察

勤労観・職業観の形成について、前述した「ア」と「イ」の視点から考察する。

「ア」働くことで社会に貢献しようとする考えまたは社会の形成者としての役割を果たすという考え
インタビューのAさんのやりがいについて注目すると、他の人がやりたくないことに自分から取り組もうとする意欲があり、社会に貢献する考えが芽生えていると考えられる。

次に表2のQさんが、設問2で「やりがい」を1位を選び、理由として「みんなのために役立っていると感じることがいいと思う。」と記述しているので授業後インタビューした。Qさんは仕事の経験があり、「みんな職業を選ぶときの基準として給料を重視していたんだけど、自分はやりがいを一番に考えていて、自分の作ったものを、お客さんがおいしいと言って食べてくれることが嬉しかった。」と語り、体験談を授業の中で話してもらえれば、さらに働くこと、社会貢献について考えが深まったと思われる。

「イ」将来の夢や希望の実現を目指してこれからの生活に意欲的に取り組もうとする考え

表2のNさんが、設問3で「働く大切さややりがいは、実際にやらないと分からないけれど、働くことについて改めて考えることも大事だと思いました。意味も分からず社会に出ることはないと思いました。働こうと思える第一歩になる授業でした。」と授業の感想を記述しており、授業後にインタビューを行った。Nさんは、「高校への入学理由は生物が履修できるからで、将来、生物を生かした仕事に就きたいので進学しようと思う。」と語った。Nさんは、自分が高校進学を決めた理由を思い起こし、進学に向けて意欲的に取り組もうとしていた。

(2) 川崎市立B高等学校での授業(全日制3年) 平成25年11月27日(水) 6校時

①題材名 「社会人としての生き方」

②学級観

在籍36人中、就職希望者が20人、進学希望者が16人であり、就職希望の生徒は7割近くの生徒が内定をもらっている。専門課程の最上級生ということもあり、進路に向けての意識は高い。また、積極的に前に出られるリーダータイプは少ないが、明るい生徒は多く、クラスもまとまっている。

③本実践とキャリア教育

自分自身を振り返り、社会人としてどのように生きていくか考えることは、卒業後の生涯設計図を再構築することにつながる。

④本時のねらい

自分の進路に向けた活動を班で報告する。また、友達の進路に向けた活動を聞くことにより、参考となることを学ぶ。そして、卒業後の社会人としての生活に臨む姿勢を確立する。

<班で報告し合う内容>

ア 会社、学校を選んだ理由

イ 就職活動や入学試験に向けて自分が努力したこと(していること)や学んだこと

⑤本時の活動

<ワークシート設問1へ自分の考えを書く>

設問1. 将来仕事をしていくうえで、あなたはどんな社会人になりたいですか。また、社会人として身に付けておかなければならないことは何だと思いますか。

<班での話し合い活動を行い、自分の考えを書く>(同じ進路希望の生徒同士で班編成をする。)

設問2. 取り組んできた進路の活動について、グループで報告する中で、参考になったことや印象に残ったことを書きましょう。

<班の中での話し合い活動を行う>

教師の発問. どんな社会人になりたいか、また、社会人として身に付けておかなければならないことについて話し合いましょう。

班での話し合いの内容を発表（クラスで意見交流）

<ワークシート設問3へ自分の考えを書く>

設問3. 授業を振り返り、あらためて考えてみましょう。あなたは、どんな社会人になりたいですか。また、社会人として身に付けておかなければならないことは何だと思いますか。

⑥授業の記録

個々の生徒の考えをみるために設問2の記述を取り上げ、次に生徒の考えの変容をみるため、設問1と3の記述、発話記録を取り上げる。

<ワークシート設問2の記述から>

設問2の記述には、「Aさんも自分と同じように教師を目指していて、進学して経済など様々な分野を学ぼうとしていることから、自分も広く勉強する必要があると思った。」「自分は、入試のエントリーシートを書いているけど、将来具体的にやりたいことが定まっていなくて、Bさんのように将来の夢や目標を見つけて取り組んでいきたい。」「営業と聞くと、必ず人と関わることだと思っていたけど、ポスターを作ることも営業事務ということを知り、広く学んでいく姿勢が必要と思った。」など、同じ進路希望の生徒同士での班で話し合い活動を行ったことで、お互いに自分に足りなかったことやこれからの生活の目標について考えている姿が見られた。

<ワークシート設問1と設問3の記述から>

設問1は授業の最初、設問3は授業の最後の設問で、記述の一部を挙げ生徒の考えの変容をみる(表4)。

3班(大学進学希望男子)

表4 設問1と設問3の記述の一部

生徒	設問1(上段)と設問3(下段)
A	資格取得、コミュニケーション、言葉づかい、責任感をもつこと、規則を守る、あいさつができる大人。 まだ社会人になるには時間があるので、これから行く大学では勉強を怠らないようにしっかりと卒業ができるようにしたいです。資格もしっかり取得する。

4班(大学進学希望男子と女子)

生徒	設問1(上段)と設問3(下段)
B	多くの人と繋がりがあって、いろいろな趣味があって、後輩にも好かれる人。 働くうえでのマナー、人との関わり、コミュニケーション能力、責任感、状況判断。一番大切だと思ったのは「責任感」だと思う。今はまだ親に甘えている立場なので、これからは親から独立していくことを考える必要がある。
C	自分で判断ができる大人になりたいです。また、コミュニケーション能力を高めたいです。 責任感のある大人になりたい。人に信頼されるのもまずは自分の行動に責任をもつようになってからだと思います。

5班（就職希望女子）

生徒	設問1（上段）と設問3（下段）
D	卒業後は就職をします。少しでも早く仕事に慣れて、みんなを引っ張っていけるような人を目指す。身に付けておくのは、尊敬語と謙譲語の使い分けがまだ微妙なので、早めに身に付ける。
	明るさと健康はやっぱり大切だと思った。他に、努力をすることや責任感、リーダーシップも将来みんなを引っ張っていけることを目指す私にとっては、必要なことでした。
E	効率よく動ける社会人。マナー、常識、責任感をもつ大人。
	責任感をもって行動できる、自然に常識が身に付いていて、気配りできる社会人になりたいです。特に自分にはリーダーシップがないので、身に付けられるようにしたいです。
F	挨拶、言葉づかいなど基本的なことをしっかりできるような社会人になりたいです。
	まだ、自分は就職先とかも決まっていなくて、社会人になったら今よりもっとしっかりしなければならないし、まずは自分にできる精一杯のことから始めていけたらいいなと思いました。そのために、今から少しずつでもできることをやっていきたいです（言葉づかいやマナーなど）。

7班（就職希望女子）

生徒	設問1（上段）と設問3（下段）
G	コミュニケーション能力、一般常識、マナーがある社会人。
	計画性がある、先のことを考えて行動ができるといいと思った。また、就く職業によって必要なものが違うので、その職業に何が必要か、何を身に付けなくてはならないかよく考えることが大切だと思った。
H	お客様からは信頼、頼ってもらえるような存在。また、後輩を引っ張っていけるような存在。協調性、コミュニケーション能力。
	責任感をもって行動をし、お客様の求めているものを提供できるように信頼関係が築ける人になりたい。後輩を引っ張っていけるようなリーダーシップをとり、気配りもできるような人になりたいです。

8班（就職希望男子）

生徒	設問1（上段）と設問3（下段）
I	周りとも明るく過ごしつつも、責任感や、良い緊張感をもって過ごせる社会人。そのためには「責任感」、「切り替えの速さ」が大切だと思いました。
	明るさ、元気は基本で、そこから人間関係が築かれていくものだと思った。失敗しても最後までやる気を出し、あきらめない心でしっかりとこそ社会人だと思う。やる気は自分次第で、良くも悪くもなる。

9班（就職希望女子）

生徒	設問1（上段）と設問3（下段）
J	毎日健康な社会人。もっとしっかりする。
	責任感や一生懸命さや、マナーも大切だと思ったけど、やはり人に言われてやるのではなくて、自分から率先して何かを行ったり、リーダーシップをとることも大切だと思いました。

ほとんどの生徒が、設問1よりも設問3の記述内容が豊富になっていた。また、社会人として身に付けるべきことは、責任感、信頼、気配り、マナー、積極性、協調性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、礼儀、努力、先読み、言葉づかい、敬語、挨拶、常識、明るさ、元気、気づかい、素直さ、広い視野、計画性、優しさ、忍耐力、思いやり、自覚、やる気、時間を守る、知識、思考力などで、すべての生徒が、社会人として働くことに対して意欲的に取り組んでいこうとしていた。

<班の発話記録から>

各班での話し合いで、4班の会話の一部を取り上げ考察する。

(4班 男子3名女子1名発話記録) T:教師 B、C、K、L:生徒

T 設問3をみてください。班で話し合った後、まとめてください。

B:では、設問3へいきましょう。

K:人付き合いをうまくして、平和を維持できる社会人。

L:多くの人とつながりがあって、色々な趣味のある、色々な趣味をもつ後輩にも慕われる社会人。

B:私は自分で判断できる大人になりたいし、資料とか書くことが多くなるだろうから、読解力とか思考力とか身に付けたい。あと、社会に出たら、たくさん色々な人と長く関わっていくことになると思うから、コミュニケーション能力を高めたいと思った。

C:私も社会人になるためには、コミュニケーション能力は必要だと思うし、自分の意見をみんなにしっかりと伝えて計画性があって、仕事が進められるような人間になりたいと思う。

L:Bさんといっしょで、自分の意見をしっかりと表現できる人。

B:うん、確かにそうだね。どういう職業に就くかによって、求められる能力も変わってくるよね。ちらっと話聞いたけどさ、隣の班、就く仕事が販売だから、明るく笑顔とか、元気とか、確かにさ、接客業とか販売の仕事ってさ、そういうのも必要になってくるよね。うちからは、計画性とか、判断力とかは出てきたけど、こんなのは出てこなかったよね。うちのは、ぼんやりとした社会人だけど、こんな具体的なものは出てこなかったよね。

4班は、4人の進学希望の生徒で、社会に出たら色々な人と関わり、自分の意見をしっかりと伝えなければならないと、コミュニケーション能力の大切さに気付いており、さらに就職希望の班の話し合いの様子から、自分たちの班で出なかった社会人として身に付けたいことを参考にしている。

⑦授業の考察

「ア」働くことで社会に貢献しようとする考えまたは社会の形成者としての役割を果たすという考え

社会に貢献するという記述はみられなかったが、多くの生徒が、責任感や信頼感をもつことを重視しているのが分かる。特に設問3で5班のDさん、7班のHさん、9班のJさんが責任感をもって行動をし、後輩を引っ張っていけるようなリーダーシップをとりたいと記述しており、社会での自分の役割を意識した考えがみられる。また、振り返りアンケートを実施したが、授業の感想に「進路の違うクラスメートのそれぞれの今後の目標(どんな社会人になりたいか)を聞き、自分の中になかった考えや、人物像がありました。職種にとらわれず、“社会”という広い単位でどのような人がこれから必要か考え直す機会となりました。」という記述があり、社会に必要とされる人物像を考えている生徒もいる。設問1で責任感や信頼されることを挙げた生徒は4人であるが、設問3で挙げた生徒は20人に増え、授業を通して責任感と役割についての自覚が芽生えたと考える。

「イ」将来の夢や希望の実現を目指してこれからの生活に積極的に取り組もうとする考え

ほとんどの生徒の設問3の記述で、将来なりたい人物像が具体的に示され、これからの生活に取り組む姿勢がみられる。5班Eさんの「リーダーシップがないので、身に付けるようにしたい。」、Fさんの「今から少しずつできることをやっていきたい。」、9班Jさんの「自分から率先して何かを行う。」などこれからの生活に積極的に取り組もうとしている。大学進学の生徒の記述についても、3班Aさんのように友達の意見を参考にし、これから大学生活をどのように送るべきかの内容がみられる。また、8班Iさんのように、あきらめない心でしっかりとこそ社会人と、具体的な社会人像を掲げて目標にしている姿もみられる。また、授業3週間後の振り返りアンケートの感想に「自分の進路

が決定して、思っている気持ちを友達と話し合うことで、さらに、夢に向かって努力していかなければならないと思うことができました。まだ、高校生のままでいたいのが本音ですが、もう2年後には社会人です。今の大人に負けない素敵な社会人になりたいです。」(短大進学希望者：Uさん)、「今回の授業では、将来の人物像を考える良い機会となったので、4月を迎えるにあたり、どのような心構えでいなければならないのか良く分かりました。また、4月までまだ少し時間があるので、今までの自分を振り返るとともに、今後の自分についてもう少し深く考えようと思います。」(Mさん)という記述があり、生徒がこれからの自分と向き合う姿勢が授業後にもみられる。

以上のことから生徒が自分の目標を再確認して、これからの生活に積極的に取り組もうとしている姿が見取れる。

(3) 川崎市立C高等学校での授業(定時制4年) 平成25年11月22日(金)4校時

①題材名 「社会人としての生き方」

②学級観

生徒16人中、進学希望が10人、就職希望が6人である。4年に進級してから本格的な就職活動や進学に対する取り組みを経験することで、学校での生活態度が改善し、不安を抱えながらも将来に対して意欲的な姿勢が見られてきている。一方、口数が少なくおとなしいクラスであり、生徒間での進路に関する情報交換や共有があまり進んでいない。

③本実践とキャリア教育

自分自身を振り返り、社会人としてどのように生きていくか考えることは、卒業後の生涯設計図を再構築することにつながる。

④本時のねらい

友だちの進路に向けた活動報告を聞くことにより、参考となることを学ぶ。そして、自分自身の進路に向けた活動を振り返り、卒業後の社会人としての生活に臨む姿勢を確立する。

(友だちの報告の内容)

ア 会社、学校を選んだ理由

イ 就職活動やこれからの入試に向けて自分が努力したことや学んだこと

⑤本時の活動「社会人としての生き方」

<Aさん、Bさん、Cさんの報告を聞く>

設問1. これまでの進路に向けた活動についての報告を聞いて、参考になったことや印象に残ったことを書きましょう。

<ワークシート設問2へ自分の考えを書く>

設問2. 今日までの、自分自身の進路への取り組みを振り返りましょう。高校卒業後の進路を決めた理由は何ですか。また、進路決定に向けて取り組んできたことは何ですか。

自分の考えを発表(クラスで意見交流)

<ワークシート設問3へ自分の考えを書く>

設問3. あなたは、どんな社会人になりたいですか。また、社会人として身に付けておかなければならないことは何だと思いますか。

⑥授業の記録

個々の生徒の考えをみるため設問2と設問3の記述を取り上げ、次に生徒の気持ちの継続性をみるため、振り返りアンケートの記述、インタビューでの考えを取り上げる。

<ワークシートの記述から>

Aさん、Bさんが就職活動に関する、Cさんが進学に向けた活動の報告をした。3人は、パワーポイントを利用して志望理由、努力したこと、活動から学んだことを丁寧に説明した。クラスの全員が報告する3人の生徒に注目し、質問も多く出された。

・Aさんの報告内容

中学校の頃から、警察官を志望していたが、採用試験に体力テストがあることを知り、準備をしていなかったため諦め、社会貢献をしようと思い警備会社への就職活動を現在している。

・Bさんの報告内容

中学校の頃からパン屋さんを志望していたが、実際に会社説明会に行ったところ、志望するほとんどの人が女子であったため、自分には向かない職場と判断する。自分の得意分野を見つめ直し、現在は清掃活動の会社を志望している。

・Cさんの報告内容

現在の自分を見つめ、自分に学力がないことに気付いた。大学に進学して勉強を重ね、学力を身に付け公務員を目指している。入試のエントリーシートなどの書類は、自分を見つめないと書くことができない。

以下、設問2と設問3に関する記述の一部を取り上げ考察する（表5）。

表5 設問2及び設問3に関する記述の一部

生徒	設問2. 進路を決めた理由と取り組んできたこと	設問3. どんな社会人になりたいか。また、社会人として身に付けておかなければならないこと。
A	警察官を目指していたけれど断念して視点を変えて警備員を目指すことに決めました。	仕事などで頼られる人間になりたいと思います。そのためにコミュニケーション能力を身につけたいと考えています。しかし、初対面の人と話すのは勇気が必要だと思うので、一步を踏み出す力もほしいです。
B	求人票検索や企業説明会など、仕事を見付けることが大切だと思います。	人のために何かできる大人になりたいです。
D	卒業後は、流れて生きていこうと思っていましたが、家族の事情もあり進学を決めました。	社会人として、会社員として、何をやるにもコミュニケーション能力は必要です。持論ですが、人と関わらない仕事などないと思っています。高卒からの未来を決めるのは自分次第。人とのつながりを大切にしていきたい。
E	高卒では、就職するのが難しいし、自分の夢を叶えるのにはちょっと無理なので、進学しようと思いました。	仕事に就けることと親に頼らないような社会人になりたい。基本的に人とのコミュニケーションや社会人としての常識を身に付けておくべきと思う。
F	就職にした理由は、己の学力の無さやお金の都合上、進学は無理だと思ったからです。	仕事をしていて、楽しいと思える社会人になりたいです。そして社会人になるということは、コミュニケーション能力が必要だと思います。
G	自分の希望の職業に就くために、進学することにした。もっと勉強したい。	周りの人間よりも知識を身につけ、色々な人から頼られるような社会人になりたいです。

H	面接練習をやってきた。	仕事を長く続けていけて、安定した生活が送れる社会人。また、社会人としてやっていくためにも様々な人と話し合えるように、コミュニケーション能力を身に付ける。
---	-------------	--

活動報告をした生徒がコミュニケーション能力の大切さを強調した結果、5人が設問3でコミュニケーション能力の大切さを挙げている。また、周りの人と話し合うことの大切さに気付いたり、初対面の人と話す勇気が必要と考えている生徒もいる。以上より、3人の報告を聞くことで社会人として身に付けるべきものが明確になり、自分の活動を振り返ることで、社会人としてどのように生きていくべきかの考えが整理されていることが分かった。

<授業後振り返りアンケートの記述及びインタビューから>

授業の効果を確認するために、生徒全員に振り返りアンケートを行った。アンケートの回答は15人からあり、1から3についての主な記述とインタビューした生徒の感想の一部を挙げる(表6)。

<振り返りアンケート> (授業3週間後、冬休み前のロングホームルームで実施)	
1.	今回の授業では、「どんな社会人になりたいか。」について考えを書きました。内容を思い出して書いてください。
2.	今回の授業で、役に立ったこと、気付いたことは何ですか。また、その理由を書いてください。
3.	その他、今回の授業についてあなたの感想を書いてください。

表6 振り返りアンケートに関する主な記述とインタビューの一部

振り返りアンケート	1	D. 社会人として社会に貢献できる人間、上司に信頼される人間になりたいです。
		F. 仕事をして楽しいと思える社会人。他の人を思いやれる人になりたい。
	2	I. 積極的な行動が必要だということ。頑張ろうと思えた。
		A. どの仕事にもコミュニケーション能力が大事だということ。
		J. 就職活動に関すること。特に面接の内容。
	3	D. 就職することの難しさやコミュニケーション能力の重要性を実感しました。
		E. 仕事をするというのは、思っていたよりも大変なものだと思いました。
		B. 進学のことあまり知らなかったもので、聞いていて楽しかった。
		H. 他人の話聞くことの大切さがわかった。
インタビュー	D. Aさんが社会のために警備会社を希望したことに共感し、自分も目標をもって大学生活を送りたい。	
	H. 3人の報告から、自分自身の活動を振り返り、目標をもつことができた。	
	F. Cさんの進学に向けての準備が、将来大学に進む上でとても参考になった。	

授業3週間後に行ったアンケートであるが、15人中多くの生徒が卒業後の生活について考えるよい機会となったと記述しており、社会貢献、コミュニケーション能力の記述のあった生徒にインタビューを行った。インタビューに答えた生徒からは、それぞれのこれからの目標、目標に対しての具体的な行動が示され、社会人としてどのように生きていくかの考えが、継続していることが分かる。

⑦授業の考察

「ア」働くことで社会に貢献しようとする考えまたは社会の形成者としての役割を果たすという考え

Aさんの報告の内容から、振り返りアンケートの中にDさんの「社会人として社会に貢献できる人間になりたい。」という記述がみられ、社会貢献の考えに共感する生徒がいたことは良かった点である。また、設問3の中にも、「人のために何かできる大人になりたい。」「周りの人間よりも知識を

身に付け、いろいろな人から頼られるような社会人になりたい。」「仕事などで頼られる人間になりたい。」という記述があり、社会貢献の考えがみられる。以上から、社会のために仕事をしようとする考えが生徒の中に芽生えたと考えられる。

「イ」 将来の夢や希望の実現を目指してこれからの生活に取り組もうとする考え

設問3で、「社会人になるということは、コミュニケーション能力が必要。」など、身に付けなければならないことにコミュニケーション能力を挙げ、これからの生活に取り組んでいこうとする生徒が多くいる。また、進学希望の生徒のインタビューで、「自分も大学卒業後はこのようになるのかと、Aさん、Bさんの就職活動を聞いて目的をもって大学生活を送る必要があることが分かった。」という話から、進学希望の生徒が自分の生き方について考えていることが分かる。以上から、ほとんどの生徒がこれからの生活に意欲的に取り組もうとしていることがうかがえる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

本研究では、ロングホームルームにおいて勤労観・職業観を形成することにより、生徒の進路への意識を高めることを目的として授業に取り組んだ。勤労観・職業観が形成されたかどうかは、前述したように次の「ア」と「イ」の考えをもつことができたかをみる。

「ア」働くことで社会に貢献しようとする考えまたは社会の形成者としての役割を果たすという考え
「イ」 将来の夢や希望の実現を目指してこれからの生活に意欲的に取り組もうとする考え

「ア」の考えについて

就職活動を経験した生徒の話をクラス全体で共有し、担任が補足説明しながらその話をうまく取り上げることで社会貢献の考えはさらに深まり、次の①②③のような生徒の姿が成果としてみられた。

- ① B高校で、どんな社会人になりたいかの設問で、将来の自分の果たす役割を考え社会の中の自分について自覚する記述がみられた。就職活動を経験した生徒の班では、話し合いで「後輩を引っ張っていきけるようなリーダーシップをとり、気配りできる人になりたい。」など、仕事をする中での自分の役割を意識した考えがみられ、担任がこの考えに注目し全体に発表させた。そのことで生徒に社会での役割についての考えが深まった。
- ② B高校で、振り返りアンケートに、「進路の違うクラスメートのそれぞれの今後の目標（どんな社会人になりたいか）を聞き、自分の中になかった考えや、人物像がありました。職種にとらわれず、“社会”という広い単位でどのような人がこれから必要か考え直す機会となりました。」という記述がみられた。この考えは、生徒が他の生徒から学んだことであり、班での話し合い活動を通して、社会という広い視野で自分を見つめる必要があることに気付いている。
- ③ C高校で、社会貢献のために職業を選んだという友達の報告に共感し、「人のために何かできる大人になりたい。」と記述している生徒がいる。担任が、授業の中で3人の生徒に進路に向けた活動について発表させ、3人の報告を補足したことから、多くの生徒は、もう一度自分の進路を見つめ直し将来の職業について考えを深めていた。

「イ」の考えについて

一人一人の実態に即して、働く目的や具体的にどのような社会人になりたいか生徒に考えさせ、グループで話し合い活動を行うことで、これからの生活に意欲的に取り組もうとする考えはさらに深ま

り、次の④⑤⑥⑦のような生徒の姿が成果としてみられた。

- ④ A高校で、班での話し合い活動を行った結果、職業を選ぶ際に優先するものに、給料、楽しさ、安定感、やりがい、働く時間、能力といった様々な意見が出され、働く目的については「やりがいを求めて働くというのが目的」など、数名の生徒に生計を立てること、やりがい、楽しさの記述もみられ、生徒が自分なりに働く目的について考えていることが分かる。
- ⑤ B高校で、担任が就職希望の生徒と進学希望の生徒を分けて班編成を行い話し合い活動させたことで、同じ目的の生徒同士での進路に向けた考えが深まった。就職活動をする生徒の報告を聞いて、進学希望の生徒が自分の進学する目的について再確認し、これからの学生生活に臨む態度を見直している。
- ⑥ B高校で、生徒が社会人としてこれから身に付けるべきものとして、例えば、責任感、マナー、コミュニケーション能力などに気付いており、これからの生活について具体的な目標を掲げている。また、就職活動をする生徒の報告を参考にして、明るさ、元気など職種によって、求められるものが違うことに気付いている。
- ⑦ B高校、C高校で、授業3週間後の振り返りアンケートの記述に、夢に向かって努力しようとする考えや目標に向けて今までの自分を振り返ろうとする考えがあり、授業後にも生徒が自分と向き合っている姿勢がみられ、気持ちの継続性がみられる。

また、授業者から、次のような実感が寄せられた。

・ A高校授業者

1年生ということもあり、将来のことや働くことを真剣に捉えている生徒はまだ少ない。また、自分から人の輪の中に入ることが苦手な生徒が多い。しかしながら、本研究の授業では、班での話し合い活動を行うことができ、働く目的について様々な意見が出され、この授業を契機に自分の進路について自覚をもち始めた生徒がいたことは嬉しいことである。

今回のロングホームルームは、他者とのコミュニケーションを通し自分の長所・短所を理解し、自分の将来に意識を向ける契機になった。

・ B高校授業者

商業科ということもあり、とりわけ就職希望者の進路活動への意識は高い。そのため、進路に向けて一人一人がしっかりと活動を行ってきている。今回の授業では活動内容をお互いに共有することで、これからの自分にとっての糧としてもらいたかった。就職希望、進学希望の生徒同士で班を構成したことで、より身近な話題であったためか、お互いの話に感心したり、驚いたりしている姿がみられ、卒業後の生活に向けての良き情報交換の場となったと感じた。

・ C高校授業者

就職活動を経験した生徒は仕事に対する意識は高い。進学に向けて取り組んできた生徒は進学先での学習内容や生活に対して展望をもっている。

自らの進路活動に取り組んできた生徒にとっては、今回の授業において、仲間のクラスメートの発表を聞くことでその発表内容に共感する部分が多く、新たな視点で自らの進路活動を振り返ることができたように思える。また、この授業を契機に生徒間での就職や進学に関する情報交換や共有が進んだと感じた。

以上の授業者の話から、生徒同士で進路活動の情報交換をすることで、進路の問題を個人で考えるだけでなく、クラス全体で考えていくことで自分なりの勤労観・職業観が形成され、生徒の中に将来の生活に向けて取り組む姿勢が確立することがわかった。

ロングホームルームにおいて、同じ進路希望の生徒同士で話し合い活動をさせたり、生徒に進路活動への振り返りを発表させたりなどの工夫を盛り込んで、クラスの友達と考えを共有する授業を实践した。その結果、生徒は自分の将来のことに関する考えを整理して目標をもつことができ、これからの生活についての具体的な取り組みについて考えることができた。授業者は、生徒が友達の意見を参考に、新たな視点で自分のことについて考えている姿を見ることができ、生徒から働くことで社会に貢献しようとする考えや将来の夢の実現を目指してこれからの生活に意欲的に取り組もうとする考えを引き出すことができた。よって、この実践は生徒の勤労観・職業観の形成の一助となり、進路への意識を高めたと考える。

また、クラス担任が授業を行ったことで、担任は、生徒一人一人の生き方について今まで知らなかった側面を知ることができ、進路指導を行うことのみならず、生徒により深く関わっていくことができた。生徒も、クラスの友達と本音で話しをすることができ、素直に自分を見つめ直すことができた。

2 今後の課題

今後の課題は3つ考えられる。1つめは、3年間を通してロングホームルームでの授業を行った場合の検証である。今回一つの例として3つの学年に題材の配置を考え検証授業は単発で行った。それぞれの授業の成果は確かめられたが全体では確かめられていないので、検証が必要である。

2つめは、ロングホームルームでのキャリア教育を、既存のキャリア教育の全体計画の中にどのように組み入れていくかということである。各学校では、ロングホームルームの年間計画があり、その中で、キャリア教育の授業をどれだけ行えるかは学校により事情は異なる。そこで、総合的な学習の時間や進路指導の取組の年間計画を整理し、このロングホームルームで行われるキャリア教育を、年間計画のどの場面で取り入れ、時間を確保するかが今後の課題である。

3つめは、ロングホームルームで考えられる授業において、「職業について」、「社会の動きと働くことについて」の題材における、勤労観・職業観を形成する授業実践例を示すことである。今回、「自己を知り、働くことと将来の社会における役割について」の題材から授業の実践例を示したが、残りの2つの題材における授業についても検証を深めることが今後の課題である。

最後に、本研究を進めるに当たり、適切なお助言をいただいた講師の先生、また、校長先生を始め各学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼を申し上げます。

【参考文献】

国立教育政策研究所生徒指導センター	
「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究報告書」	2002年
新谷 威『中学・高校「働くルール」の学習』きょういくネット	2005年
下村英雄『キャリア教育の心理学』東海大学出版会	2009年
岡田尊司『なぜ日本の若者は自立できないのか』小学館	2010年
中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』	2011年
文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』	2012年
国立教育政策研究所『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程』	2012年

【指導助言者】

帝塚山学院大学人間科学部教授（川崎市総合教育センター専門員）	工藤 文三
川崎市総合教育センター指導主事	安藤 勉